

社会福祉法人 光の児童福祉会  
平成 3 0 年度の主な事業報告

平成 3 0 年度報告

第一光の子保育園

最大 2 0 7 名 (定員 2 0 0 名) の子どもたちを保育  
内. 0 歳児 1 4 名 (最大)

第二光の子保育園 (最大)

最大 1 4 2 名 (定員 1 2 0 名) の子どもたちを保育  
内. 0 歳児 1 5 名

平成 3 1 年 4 月より (平成 3 1 年 3 月 2 2 日 定員 1 4 0 名で設置認可)

角田光の子保育園 (定員 1 4 0 名)

1 4 5 名 (他市町村より 2 名) でスタート  
6 月には、1 4 7 名に。

○平成 3 0 年度 4 月以降の在園児状況

■ 2 0 1 8 年度 (平成 3 0 年度) ・月別在籍児童数 (入所児の年齢別)

第一光の子保育園

(定員 2 0 0 名)

2018 年	0 歳児	1 歳児・2 歳児	3 歳児	4 歳児・5 歳児	合 計
4 月	8	5 5	4 0	1 0 1	2 0 4
5 月	1 1	5 5	4 0	1 0 1	2 0 7
6 月	1 1	5 5	4 0	1 0 1	2 0 7
7 月	1 1	5 5	3 9	1 0 1	2 0 6
8 月	1 1	5 4	3 9	1 0 1	2 0 5
9 月	1 1	5 4	3 9	1 0 1	2 0 5
1 0 月	1 1	5 3	3 9	1 0 1	2 0 4
1 1 月	1 2	5 3	3 9	1 0 1	2 0 5
1 2 月	1 2	5 2	3 9	1 0 1	2 0 4
1 月	1 3	5 2	3 9	1 0 1	2 0 5
2 月	1 3	5 1	3 9	1 0 1	2 0 4
3 月	1 4	5 1	3 9	1 0 1	2 0 5
延人数	1 3 8	6 4 0	4 7 1	1 2 1 2	2 4 6 1
月平均	<b>11.50</b>	53.33	39.25	101	<b>205.08</b>

2019 年	0 歳児	1 歳児・2 歳児	3 歳児	4 歳児・5 歳児	合 計
4 月	5	4 8	3 1	9 4	1 7 8
5 月	5	4 7	3 1	9 4	1 7 7
6 月					

第二光の子保育園

(定員120名)

2018年	0歳児	1歳児・2歳児	3歳児	4歳児・5歳児	合計
4月	8	42	27	58	135
5月	10	41	27	58	136
6月	12	43	27	58	140
7月	13	43	27	58	141
8月	13	43	26	58	140
9月	15	42	27	58	142
10月	15	41	27	58	141
11月	15	41	27	58	141
12月	15	42	27	58	142
1月	15	42	27	58	142
2月	15	42	27	58	142
3月	15	42	27	58	142
延人数	161	504	323	696	1684
月平均	<b>13.42</b>	42.00	26.92	58.00	<b>140.33</b>

2019年	0歳児	1歳児・2歳児	3歳児	4歳児・5歳児	合計
4月	4	43	27	58	132
5月	5	43	28	58	134
6月	6	45	29	58	138

角田光の子保育園 (2019年 4月開園)

2019年	0歳児	1歳児・2歳児	3歳児	4歳児・5歳児	合計
4月	10	48	30	57	145
5月	10	48	30	57	145
6月	12	48	30	57	147
7月					
8月					
9月					
10月					
11月					
12月					
1月					
2月					
3月					
延人数					
月平均					

## 1. 保育士確保問題

今年度末の時点で、第一光の子保育園の退職予定保育士が5名、第二光の子保育園の退職予定保育士及び角田光の子保育園への異動予定保育士とで合わせて7名となっているが、確保することができた保育士は、その半分にも至っていない。第一光の子保育園も、第二光の子保育園も、保育士の数が足りない状態の中での新年度の保育となってしまうことから、どちらの保育園も0歳児を6名程度に制限しての保育を余儀なくされている。そのような厳しい保育士確保問題が続く中、2019年4月1日に開園すめことになった角田光の子保育園は、新しい施設であることと、角田という地域性もあって予想外に必要な保育士を確保することができている。

いずれにしても、この保育士不足の問題は、当法人の施設に限られたものではなく、全国的な問題となっており、国でも県でもその対策を考えてはいるようだが、昔ながらの給付費(運営費)には地域区分(仙台は上から6番目、仙台市以外の地域は18番目のその他の地域)があるため、東京を中心とした関東圏や仙台市のような政令指定都市などの給付費の額が高く設定(子ども一人あたり1万円以上)されており、それに伴って給与水準の高い地域にますます保育士が流れてしまう傾向となっている。この傾向は、今後、より深刻な事態を生じさせることが予想される。しかも、保育士確保のために、東京都を始めとした財政規模の豊かな市(仙台市、大崎市、岩沼市)や町(巨理町等)においては、さらなる給与の上乗せが既になされたり検討されたりしているが、当法人の施設があるような地域では、何らの対策も講じられていないだけでなく、「給与だけの問題ではない」との考えから対策を講じる予定もなく、まったく解決の糸口が見えないものとなっている。

そうした厳しい現状の中にあっても保育を継続するため、様々な保育士確保の取り組みをしてきた年であった。

- ・ 様々な求人誌の活用(効果が無かったことから途中で休止)
- ・ 独自の求人誌の作成(日新社に依頼作成中)
- ・ 養成校との緊密な連携(第一光の子保育園の園長を中心にして)

## 2. 第一・第二光の子保育園の施設整備(補修・改修等)

- ・ 第一光の子保育園

次年度には、園舎も築7年を経過することから、様々な修繕箇所が出てきたことからそのことへの対応を順次してきた。

- ・ 第二光の子保育園

次年度には、園舎も築14年を経過することから、様々な修繕箇所が出てくることから予想されると共に、設備関係も耐用年数を越え始めているものが続出していることから、そのことへの対応を順次してきた。

第二光の子保育園は、元々と90名定員の補助金で施設整備した園舎であることから、当初予定していた使い方ができない中での保育となっていることから、待機児解消後に定員を90名に戻す必要があるのではないかと考えられる。

- ・ 角田光の子保育園(平成31年4月1日開園)

開園したばかりの施設であることから、細々とした備品等の購入が必要になることが予想される。

### 3. 第一・第二光の子保育園の認定こども園(保育所型)への移行

- ・ 認定こども園の移行猶予期間が、2019年度をもって一応終了することから、認定こども園に移行することで、1号認定(幼稚園利用)の子どもたちをも受け入れることができるようにしておく必要があるように考えられる。実際には、2号認定(保育所利用3歳以上)の待機児もいることから、1号認定の子どもたちを受け入れるようになることはないものとは思われるが、国の政策上のことを考慮すると、猶予期間においての移行が必要であるように思われる。
- ・ 角田光の子保育園については、角田市の要請により、当分の間、認定こども園への移行はしない予定。